

JANIE REED



惜しみない 信頼の表現

ジャニー・リードは、アメリカ代表ソフトボールチームの外野選手です。3人姉妹の中で一番下でありながら姉妹のなかで最も多く表彰台にのぼっているソフトボールプレイヤーであり、スポーツに対する情熱を分かち合うプロのアメリカ人野球選手と結婚しています。彼女の目標は、女性のスポーツに変化をもたらし、世界と福音を共有することです。

子供の頃は、とりたてて目立つ選手ではありませんでした。私は、「いつか、オリンピックに出場するチャンスをつかむんだろう」と言われるような女の子ではありませんでした。オリンピックの選考会に参加するのはとても怖かったです。自分と自分のチームメイトとの間で行われる競技に参加するのは大変です。オリンピックチーム入りを目指している間、私はメンバー18人の枠の1人を目指しているのであって、特定の人と争っているのではないことをよく思い出していました。

選考会の前夜、数人のメンバーがチームメイト全員を誘って、選考会が始まる前の恒例の祈りの集いに参加しました。29人のチームメイトのうち、20人が集まってくれました。この伝統は、私たち全員にとって非常に役立っています。チームに入るという同じ立場にある私たちは、異常なプレッシャーでもお互いに助け合う存在であることを思い出すことができます。お互いに邪魔をするのではなく、助け合うことを選んでいます。

選考会の最終日の朝、私はこれが最後かもしれない、ソフトボールをプレーするのはこれが最後かもしれない、と沈んだ気持ちになりました。オリンピック委員会に自分の実力を示すチャンスはもうすぐ終わってしまうのに、自分がベストなプレーをしていないことはわかっ



「しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。あなたがたは、『かつては神の民ではなかったが、今は神の民であり、憐れみを受けなかったが、今は憐れみを受けている』のです。」－1ペテロへの手紙 2:9-10



ていました。準備ができていなかったのです。このような考えに悩まされていた私は、チームメイトを呼び、祈りを求めました。彼女が一緒に祈ってくれた後、顔を上げると2人のチームメイトが同じように祈っていました。私は、このチームに与えられている素晴らしいコミュニティに感銘を受けました。私たちの一人が落ち込んでいるとき、あるいは落胆しているとき、神は私たちを引き上げてくれるチームメイトを教えてくださいます。

幸いなことに、選考委員会はこの4日間の選手のパフォーマンスだけを考慮するのではなく、1年を通して選手たちのプレーを見ています。そして、選好テスト会場に集まった素晴らしい選手たちの中で、他の選手よりも圧倒的に優れた選手は一人もいませんでした。リストが掲示され、自分の名前が載っているのを見たとき、とても謙虚な気持ちになりました。

そのリストに自分の名前を見つけた時、神の力によって私がここに導かれたことを思い出しました。これは私自身の行いではありません。選考会までの間、私は何週間も休みなしで毎晩何時間も打撃練習をしていました。この4日間最高のプレーを見せてチームメンバーに選ばれいたら、それは自分の努力の成果だと思っていたでしょう。でもどのように起きたかを見ると、神は最初の最初から私の旅に関わってくれていたことが分かります。

最近、著者が「神を信じることとは、ステップが何かわからないまま神と一緒に歩くことだ」と書いた本を読んでいました。そのためには、惜しみない信頼を示さなければなりません。肉体的な準備の仕方は、フィールドでの自信に直結します。神の前での私心も同じです。神を信頼するために心を整えれば整えるほど、神がコントロールしていることに自信を持つようになります。著者が言うように、私たちは自分のパフォーマンスがどうであるかよりも、誰とプレイしているかを気にしなければならないのです。

オリンピックの選考会に向けて、私は神よりも自分の成績を気にしていました。私はすぐに、キリストのためにはすべてを失うと考えなければならないことに気づきました。もともと私ものではありませんでした。ソフトボールは私に与えられたものであり、神のものです。私は、神がどこに導いてくれるかを気にする以上に、人生を共に歩んでいる神を大切にしなければなりません。神が私をどこへ連れて行こうとも、私は流れに身を任せなければなりません。それは合理主義を捨てて、信頼に集中することです。

私が心の奥深くで願っているのは、私のオリンピックへの旅を見ている誰かが、神への惜しみない信頼として言い表してくれることです。

米国